

干支学から見る丑年の傾向

著述業・東京恵比寿 RC 井上象英様



した様子の中に苦く辛く痛みを伴う作用があるとします。そこから「辛い・厳しい」や「新(薪)」の意義に発展。また、冬の到来を待って干め冒すので殺傷を伴うこととなり、自然のあらゆる物全てが一掃する過程にあたります。つまり、前年の庚の作用を受けて断固として進む貌なので痛みを伴うことは覚悟しなければなりません。史記：二十四史の一つ。古代中国の歴史書(司馬遷)

基本星(記号)

現在、私たちが使用する年号は「令和」です。しかし、運氣や運勢などを知る為にはその年や月、そして日々に配当されている和暦(干支暦)を知る必要があります。古代中国「殷」の時代から使用されている暦は「自然周期学」と称され、宇宙の有り様は神の領域でもありましたが、孔子も孟子もその達人だったのです。これらの星が様々な組み合わせられ、配置されることによって起きる自然のメカニズムが、数百年と経過することにより一定の条件が調った時、発生する自然災害を天災と言います。また、事件や社会情勢など、人間の運氣やバイオリズムにも深く関わりを持つと云うことが解明されております。そこで最も暦に必要な記号が「十干」と「十二支」と「九星」であります。

干 かん …10種類(甲・乙・丙・丁・戊・己・庚辛・壬・癸)

支 し …12種類(子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥)

星 ほし …9種類(一白・二黒・三碧・四緑・五黄・六白・七赤・八白・九紫)

その組み合わせは大きく分別して「36」、「60」、「180」通りになります。

十干と五行の関係

「五行」は地球自然界の構成要素で、木・火・土・金・水の五つの気(星)を指し、水を万物の基礎としています。

「十干」は太陽の作用で10日に一巡する天の気。気候や人の精神面に影響します。

陽(○) 甲(木のえ) 丙(火のえ) 戊(土のえ)
庚(金のえ) 壬(水のえ) 陰(●) 乙(木のと) 丁(火のと) 己(土のと) 辛(金のと) 癸(水のと)

十二支と月

丑 寅 卯 辰 巳 午 未 申 酉 戌 亥 子
1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月
10月 11月 12月

「十二支」は季節の12ヶ月を表し一年の周期現象。12日に一巡する地の気です。農耕や経済面に影響を及ぼし、天干(幹)に対し地支(枝)としての役割があります。

「干支学」は、

太陽の出没と深く関連し、万物の芽生えから成長、繁栄、衰退、消滅までの活動、物事や自然の変化の実体とそのプロセスを分類し説明したものであり、農耕社会におけるリーダーの心得でもありました。その内容は、自然の仕組みを背景に人生の在り方、暮らしの指針を表わしています。そして、人間が自然と共に暮らすための「人道の心」と「あらかじめ準備する」心得を、干支学を通して説明しています。

2021年(令和3年)

辛丑(かのと・うし)：六白金星

辛(陰金) …十干の八番目。五行では金性(金の弟)の陰気で方位は西に在る。象形は「針」と同義で先の尖りの貌。また史記に「言萬物之辛生」とあり、万物が熟成

丑(陰土) …十二支の2番目。五行では土性の陰気の星。方位は北北東(15度)。季節は冬の1月(旧暦12月)で、時間は午前1:00~3:00の真夜中。未だ事を成しえぬ意を指し、寒気が解けるのを待っています。説文には「丑、紐也」「丑、手機也」とあり、様々な糸を束ねたり結んだり、或いは織り成したり。

また、拳を広げ仕事を始める動作を指すので、様々な新しい活動がスタートする気配を感じます。つまり「新」の暗示もある。子は善悪共に成長するので丑は良い方へ伸ばし、働き方や学び方の変革を余儀なくされるのです。子は転じて「孳」や「繁」に通じ、生命が誕生して成長増殖する暗示がある。その成長には勢いがあり善悪不二と言えます。⇔昨年講演資料

六白金星…西北方位の60度に位置し干は「なし」。支は「戌・亥」を指す。そして中央には易の「乾」が配置され、季節は秋。時間は午後7時~11時。五行は金気。固い性質をもつ陽気の星。易卦(☰)では「天・剛」を象意として「動いて止まず」の働きがあります。また、天は父なり権威なりで、施しと強剛さを兼ね備えています。場所としては神社仏閣を指し、神様や仏様の慈悲の心、健全な肉体と精神の象徴です。その白色は、冒しがたい高貴な白金であっても荒金なので精錬次第で美しく光り輝く、将来へ向けた未知の魅力があります。

180 前天保の改革では、昌平黌を幕府が認め、各地に藩校が開かれることになった。明治に入った丑年には、西南戦争の後に東大や学習院が開校される。伊藤博文や福沢諭吉らが大いに活躍するが、昭和に入り、内閣が混乱して労働争議が政局を混乱させることに。そして戦争に突入し、マッカーサーによって戦後の歴史がスタート。1ドルが360円と安く見下されたものの、所得倍増や列島改造などが進められ、昭和の丑年には日本の経済成長は他国と群を抜き、やがてバブルと言われる時代に突入した。そして平成、将来を担う日本の若者達への教育は、この丑年で大きく変わった。いじめも表舞台に。詐欺や汚職、隠蔽からの航空大事故も。コレラ、大型台風では数百人が死亡し数千人の被害者が出た。何時の世も災害は忘れたころ突然やって来る。

丑年や六白年の傾向

善悪何れか社会環境の流れが変わる。自然界では異常気象は避けられず、感染症など新型のウイルス病に注意が必要。→→とは昨年講演資料の一文でもあります。

今年はオリンピック効果が得られるとは言い難い。コロナ禍で変わってしまった世界。ねじ曲がったものは正す必要がありパラダイムシフトの時。春の地方選挙・秋に衆議院選挙があるが政治の世界は混戦状態に。自治行政、国政を担う首長の言動が注目される。丑の絆や約束は目と目を合わせて手を差し伸べて組み合う信頼の行為。辛酸や痛みを伴う時期をこえて新しい国造りの活動に入るのではないかと。

開花宣言は早く花粉アレルギーは例年より厳しい。

今年のキーワード：「萬物の一新」&「新たな日常」